

「希望の岡」を目指して

1. はじめに

低成長経済が続き、東日本大震災の復興経費や年々増加する社会保障経費により、国の財政状況は危機的な水準となっています。

静岡市においても、歳入の増加が期待できないなか、歳出は社会保障関係経費や公債費にかかる一般財源の需要増加が見込まれるなど、大変厳しい状況にあります。

また、本格的な人口減少社会が到来し、急速な勢いで少子高齢化が進んでおり、現在約72万人の本市人口も平成47年には60万人を割り込むという想定が出されています。

わが国の高度経済成長は過去のものとなり、各々の地方の歴史や文化などの個性が尊重される地域主権型システムに移行させていこうとする取組みが全国各地で強まっています。

2. 質への転換

私は、多くの先人たちが残してくれた地域資源を活かし、本市を「世界に輝く」都市にしたいと考えています。

「世界水準の都市環境のもとで、市民のみなさんが各々の天分を發揮して、笑顔あふれる豊かな生活（暮らし）を送っている」というまちの姿が、私の理想であり、私が思い描く【「希望の岡」しずおか】です。

目指すべき世界水準の人々の生活（暮らし）と

は、物の豊かさと心の豊かさが、ほどよく両立する都市の「質」にあると考えます。文明的に、快適便利に暮らすことができる一方、文化的に、豊かな自然や歴史を感じることができる、経済と文化のバランスが取れた「世界水準の都市」となるよう、ハード、ソフト両面にわたって、「まちみがき」に取り組んでいます。

3. 公共工事の品質確保

高度成長期の建設事業はスクラップ&ビルドで行われていましたが、厳しい財政状況や市民意識の変化に伴い、サステイナブルなまちづくり、ライフサイクルコストを考慮した、「品質と経済性の両立」が求められるようになり、平成17年に「公共工事の品質確保の促進に関する法律」が施行されたことで、その傾向が一層明確になっています。

本市においても公共工事コスト構造改善、技術職員の育成と技術力の継承、総合評価競争入札の導入などにより、「品質と経済性の両立」の推進に努めています。

公共工事コスト構造改善は、国が示したプログラムに基づき、「公共事業コスト構造改善事業静岡市第3期行動計画」を策定したもので、総合コスト改善率10%を目標としています。

一部の工事では設計VEを導入し、関係者でのワークショップを通じて「使いやすく管理しやすい」と「工事コストの削減」の両立を目指した取

静岡市長 **たなべ のぶ ひろ**
田 辺 信 宏



組みを行っており、今後、より効果が高いとされる基本計画段階でのVE導入も検討しています。昨年は、これらの取組みに高い評価をいただき、公益社団法人日本VE協会の「マイルズ賞特別賞」を政令市で初めて受賞することができました。

研修については、人事部門と別に技術部門の課で技術職員に特化した研修を所管、実施しており、技術職員のみで判断しながら必要な研修を行っています。これにより、若手職員の早期育成（基礎技術力の養成と先輩職員からの技術力の継承）、中堅職員の高度な技術力修得と指導力の向上を図り、優れた設計、現場管理能力を有し、品質確保が適切にできる技術職員の育成に努めています。

4. 入札契約制度の適正化

公共工事は、その多くが市民生活の基盤となる道路・河川・公園・上下水道等の整備を行うものであり、その入札に関して市民の疑惑をまねくことのないようにするとともに、適正な施工を確保し、良質な社会資本整備が効率的に推進することが求められており、本市でもそれらを踏まえ、入札契約制度の適正化に努めています。

公共工事の品質確保を図るための入札契約制度である総合評価競争入札は、「公共工事の品質確保の理念」と「公共工事の入札及び契約の適正化の推進」に関する要請の主旨を踏まえて取り組みを始めました。

本市の総合評価競争入札は、平成18年度から試行し、平成23年度までに686件の工事で実施してきました。そして、これらを分析した結果、総合評価競争入札による調達が工事成績の向上等公共工事における品質向上に寄与していることが確認できたため、平成24年度から本格運用を開始したところです。

今後の総合評価競争入札については、公共工事の品質確保の観点から、毎年度、総合評価の結果を検証し、より良い制度になるように努めてまいります。

5. おわりに

静岡市には恵まれた気候や自然、世界に誇れる歴史文化、そして地元経済や生活環境を支える市民力など、たくさんの魅力ある地域資源があります。整備されてきた数々の施設や仕組みもあります。

世界水準の素晴らしい都市にしていくため、本市に今必要なのは「まちづくり」ではなく「まちみがき」だと考えます。

むやみに新しいモノをつくるのではなく、もともとある素材を最大限に活かしていけば、先行き不安な現状をきつと打破することができるでしょう。

**私たち市民が望んでいるのは、わくわくと
希望に満ちた 未来ではないですか？
だから、静岡を「希望の岡」に。**